

北曲雜劇「雲窓夢」第三折に関する考察

福永美佳

一 はじめに

明代無名氏作の北曲雜劇「鄭月蓮秋夜雲窓夢」(以下「雲窓夢」と称す)は、妓女鄭月蓮が書生張均卿と結ばれる話である。

現在確認される「雲窓夢」テキストは、次の七種である¹⁾。

- (一) 脈望館鈔校于小穀本「鄭月蓮秋夜雲窓夢」
- (二) 『詞林摘艷』「秋夜雲窓夢雜劇」第一折、「雲窓夢雜劇」第三折

- (三) 『詞譜』「鄭月蓮秋夜雲窓夢」第一出

- (四) 『楊夫人樂府』「仙呂點絳脣」一套

- (五) 『盛世詞林』仙呂目録「驕馬吟鞭」一套、
中呂目録「皓月澄澄」一套

- (六) 『北詞譜』「雲窓夢」仙呂宮【村里迓鼓】【後庭花】の二曲【尾声】から一句。中呂宮【十二月】。

(七) 『北詞廣正譜』「雲窓夢」仙呂宮【村里迓鼓】【後庭花】の二曲、【尾声】から一句。中呂宮【十二月】。

このなかで(一)は明の宮廷における上演用テキストの写しとして知られるもので、セリフやしぐさを完備する唯一の戯曲テキストである。これ以外は、劇としてみればストーリーの一部しか伝わらないテキストである。しかも、ここに挙げた七種すべてがそろうのは第一折に限り、それ以外は第三折が(一)(二)(五)(六)(七)に伝わるだけである²⁾。

筆者は右に挙げた七種のテキスト間の異同にもとづき、明代の嘉靖年間にテキストの校合によって祖本を再建する運動が起きていることを明らかにしている³⁾。本稿は、このなかで紙幅の都合により取り上げることができなかった第三折を対象に、五種のテキスト間の異同を考察し、「雲窓夢」第三折には宮廷

二 曲牌の違い

諸本の異同として挙げられるのは、曲牌名および数である。テキストごとに曲牌名を示したものが、次の表である。なおテキストを引用する際は、字体を区別し、可能な限り原文どおりに記す。

[illegible]

– 15 –

このようにテキスト間で曲牌数に差があるのはテキストの性質に起因するものであろう。戯曲の選集である于小穀本、曲選である『詞林摘艶』『盛世詞林』では歌辞の内容を伝えることが重視され、ある程度まとまった形で残されていると考えられる。これに對し、曲譜である『北詞譜』『北詞廣正譜』では、曲律を載せることが優先された結果、必要な部分のみ切り取られたのである。

また、曲牌名においても違いがある。一つは四曲目において、「(于) 雲窓夢」及び「(盛) 皓月澄澄」では【紅綉(繡) 鞋】とあるが、「(林) 雲窓夢」では【朱履曲】とある。先行研究によれば【紅繡鞋】と【朱履曲】とは同じものとされ、内容上の異同はない。この他、十六曲目から十九曲目にある四曲は、「(于) 雲窓夢」では【四煞】【三煞】【二煞】【尾煞】の順だが、「(林) 雲窓夢」では【三煞】【二煞】【一煞】【尾聲】の順であり、「(盛) 皓月澄澄」では【耍孩兒】【耍孩兒】【耍孩兒】【尾聲】の順である。これらは曲牌名こそ違うが、内容はそれぞれ対応している。

それでは、歌辞にどのような相違があるだろうか。

三 歌辞の異同

まず【石榴花】を挙げる。(例①)

(于) 聴的唱陽関歌曲腦門疼、委實的倦聴、慘然悽聲。
(林) 聴的唱別離歌曲腦門疼、委實的倦聴、慘然悽聲。
(盛) 聴的唱別離歌曲腦門疼、委實的倦聴、慘然悽聲。
(北) なし
(廣) なし

ここは「(北) 雲窓夢」「(廣) 雲窓夢」には伝わらない。傍線部において「(于) 雲窓夢」では「陽関歌曲」であるが、「(林) 雲窓夢」及び「(盛) 皓月澄澄」では「別離歌曲」である。陽関曲とは、唐代王維の七言絶句「送元二使安西(元二の安西に使いを送る)」にもとづく曲で、別れの歌として名高い。ゆえに「陽関」と「別離」が意図するものは同じということになる。ところが、「(于) 雲窓夢」では典故を用いて暗示するのに對し、「(林) 雲窓夢」「(盛) 皓月澄澄」では直接的な表現を用いている。これは明らかな差であり、宮廷本系列の「(于) 雲窓夢」と、「(林) 雲窓夢」及び「(盛) 皓月澄澄」とは系統が分かれることを示している。

それでは「(林) 雲窓夢」と「(盛) 皓月澄澄」には異同が存在しないのか。次に【三煞】「(林) 雲窓夢」では【二煞】「(盛) 皓月澄澄」では【耍孩兒】を挙げる。(例②)

(于) 惱人心半窓_レ裊_レ裊疎梅影、聒人耳萬種_レ蕭_レ蕭落葉聲。

(林) 惱人心半窓_レ裊_レ裊疎梅影、聒人耳萬種_レ消_レ消落葉聲。

(盛) 惱人心半窓_レ裊_レ疎梅影、聒人耳萬種_レ蕭_レ蕭落葉聲。

(北) なし

(廣) なし

ここも「(北) 雲窓夢」「(廣) 雲窓夢」に伝わらない。傍線部では、「(于) 雲窓夢」が「裊」であり、「(林) 雲窓夢」「(盛) 皓月澄澄」が「裊」である。「裊」は「窓」の異体字であるため意味の違いはなく、ここでは梅の木の影が「ゆらゆら」する様子を形容している。また、波線部では「(于) 雲窓夢」が「蕭蕭」とし、「(林) 雲窓夢」が「消消」とし、「(盛) 皓月澄澄」が「蕭蕭」とする。これらは、字が違うが音は同じ

で落ち葉の落ちる「ざわざわ」という音を表すものである。つまり、例②の異同は表記法の差であって内容上の差ではない。よって、例①及び例②にもとづけば「(林) 雲窓夢」と「(盛) 皓月澄澄」とが同じ系統であると考えられるのである。

そのほか「(北) 雲窓夢」「(廣) 雲窓夢」ではどうだろうか。五種類のテキストが伝わる【十二月】を挙げる。(例③)

(于) 可_レ搂 抱在懷兒里、 覷_レ着這短命牢成。

(林) 可_レ搂着 懷兒裏抱定。 覷_レ着這短命牢成。

(盛) 可_レ搂着 懷兒裏抱定。 覷_レ着這短命牢成。

(北) 可_レ搂着 懷兒裏抱定。 覷_レ着這短命牢成。

(廣) 可_レ搂着 懷兒裏抱定。 覷_レ着這短命牢成。

ここでは「(于) 雲窓夢」を除くすべてのテキストの本文が一致している。このように「(北) 雲窓夢」「(廣) 雲窓夢」が、「(林) 雲窓夢」「(盛) 皓月澄澄」と本文が一致していることから、この四つのテキストが同系統であると考えられる。また、例①をふまえると、宮廷本に由来する「(于) 雲窓夢」と、民間由来のテキストとは明らかに系統が異なるといえる。

四 おわりに

北曲雜劇「雲窓夢」第三折を有すテキストは五種ある。その五種とは、「(于)雲窓夢」「(林)雲窓夢」「(盛)皓月澄澄」「(北)雲窓夢」「(廣)雲窓夢」である。

これらのテキストは、二系統に分けられる。一つが、宮廷本に由来する「(于)雲窓夢」の系統である。もう一つが、「(林)雲窓夢」「(盛)皓月澄澄」「(北)雲窓夢」「(廣)雲窓夢」の系統である。全体的にみて第三折は、第一折に比べて異同が少ないが、そのわずかな異同からも宮廷本と民間本とは系統が分かれることが見て取れる。これは第一折の考察の結果とも矛盾が生じない。

1 本稿で使したテキストは次のとおり。

- ① 『脉望館鈔校本古名雜劇』第八冊 張琦美輯（綫裝書局、二〇一六年）所収
- ② 『詞林摘艶』張祿輯 明嘉靖四年刻本影印『續修四庫全書』一七四〇冊（上海古籍出版社、一九九五年）所収
- ③ 『盛世詞林樂府大全』第四冊 明無名氏編 明鈔本 中国国家図書館「中華古籍資源庫・数字古籍資源庫」
(<http://read.nlc.cn/OpenBook/OpenObjectBook?aid=892&id=120375.0>)
- ④ 『北詞譜』第一冊 徐慶卿編 中国国家図書館「中華古籍資源庫・数字古籍資源庫」
([http://read.nlc.cn/OpenBook/OpenObjectBook?aid=892&](http://read.nlc.cn/OpenBook/OpenObjectBook?aid=892&id=120375.0)

id=157091.0)

- ⑤ 『一笠菴北詞廣正九宮譜』李元訂 清康熙間文靖書院刊本
- 2 「(于)雲窓夢」には幕の切れ目を示すものがない。便宜上、北曲雜劇において幕切れを示す「折」によって区切る。
- 3 福永美佳「李開先以後に見られる本文批評の実践と祖本再建」(近日中に公開予定)
- 4 「(林)雲窓夢」では、【上小楼】の歌辞のあとに続いて【么】を載せる。
- 5 鄭壽「北曲新譜」(芸文印書館、一九七三年)によると、【紅綉鞋】と【朱履曲】は同じものとされる。

※本研究はJGS科研費一九K一三〇九二の助成を受けたものです。